



第1節 希望する進学段階

第2節 中学受験

第3節 高校選択

第4節 大学入試

ベネッセ教育総合研究所 研究員 吉本 真代

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

1

希望する進学段階

希望する進学段階は、小・中・高校生とも「四年制大学まで」「大学院まで」が増えている。とくに小・中学生の女子では、2006年から「四年制大学」「大学院まで」が大きく増え、反対に、2006年まで増加していた「専門学校・各種学校まで」が微減している。

● 「四年制大学まで」「大学院まで」の進学希望が増える

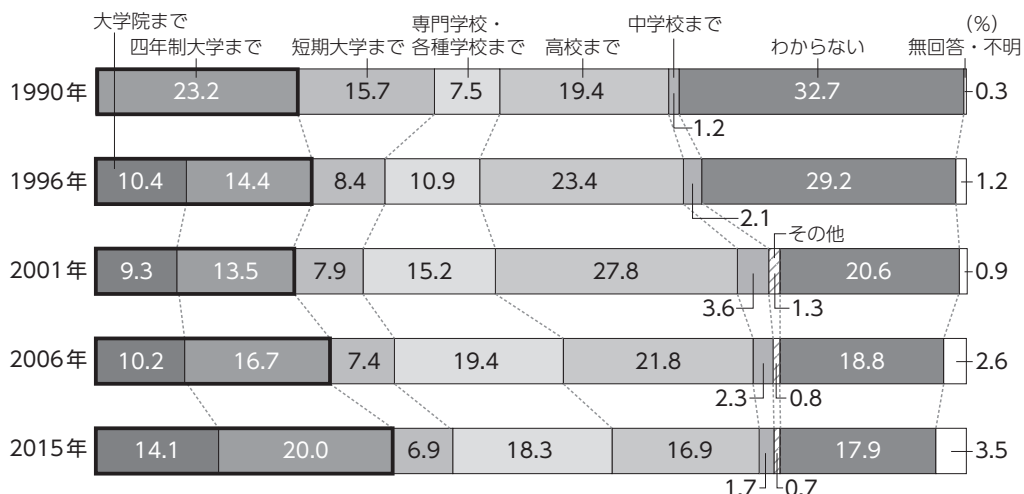
希望する進学段階について学校段階別にみていく。まず、小学生についてみると、「四年制大学まで」+「大学院まで」の比率が34.1%となり、2006年調査の26.9%から7.2ポイント増加した(図5-1-1)。また、1990年からみて特徴的なのは、1990年には「わからない」が32.7%だったのに対し、2015年は17.9%と大きく減少していることだ。小学生のうちから、希望する進学段階のイメージをもつようになってきていることがわかる。

次に中学生をみると、小学生同様「四年制大学まで」+「大学院まで」の比率が2006年の34.3%から7.8ポイント増えて42.1%となり、反対に「短期大学まで」「高校まで」が減っている(図5-1-2)。

また、高校生は、調査対象が普通科のみであることに留意する必要があるが、「四年制大学まで」+「大学院まで」の比率が83.3%となり、2006年比で6.7ポイント増えた(図5-1-3)。一方で、1990年調査から2006年調査まで漸増傾向にあった「専門学校・各種学校まで」が、2015年調査では2006年比で4.4ポイント減少している。

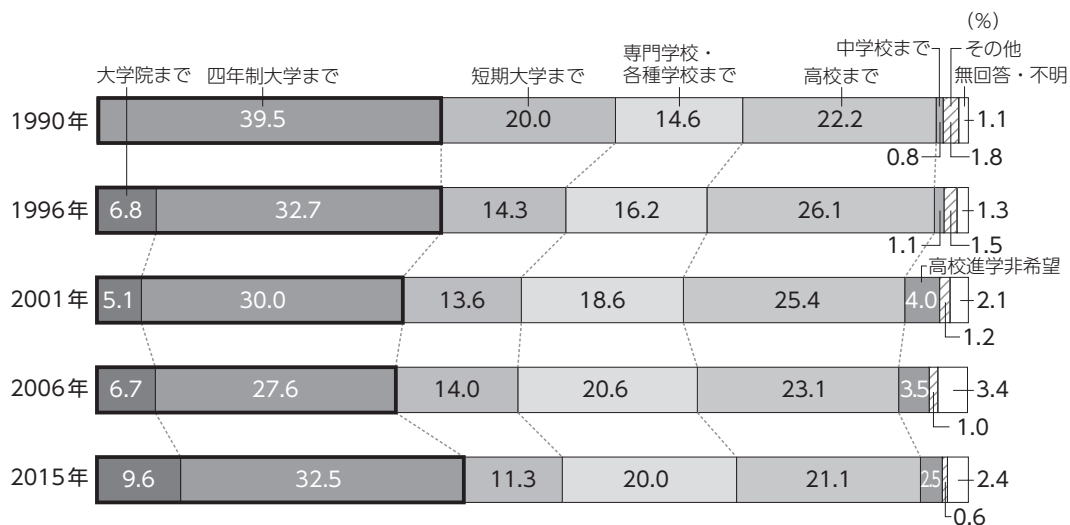
Q あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

図5-1-1 希望する進学段階 (小学生、経年比較)



注1) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。 注2) 「その他」は2001年から選択肢に含めている。

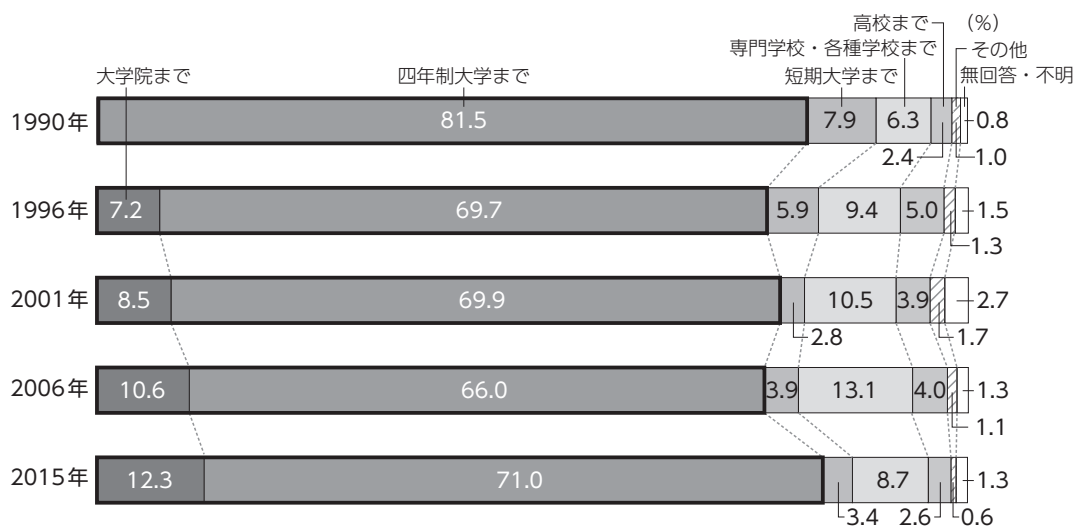
図5-1-2 希望する進学段階（中学生、経年比較）



注1) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。

注2) 2001年・2006年・2015年は、「あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか」に対し、「思っている」と回答した中学生を対象に希望する進学段階をたずねている。「思っていない」と回答した中学生は「高校進学非希望」としている。

図5-1-3 希望する進学段階（高校生、経年比較）



注) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。

●女子で「四年制大学まで」+「大学院まで」が増え、「専門学校・各種学校まで」は減少
主に高校卒業後の進学先である「大学・大学院」「短期大学」「専門学校・各種学校」に限って、性別に希望する比率の推移をみたものが図5-1-4～6である。

小・中学生の女子はいずれも、2006年から2015年で「四年制大学まで+大学院まで」の希望が10ポイント以上増え、「短期大学まで」が微減、1990年から増加傾向にあった「専門学校・各種学校まで」も減少に転じて

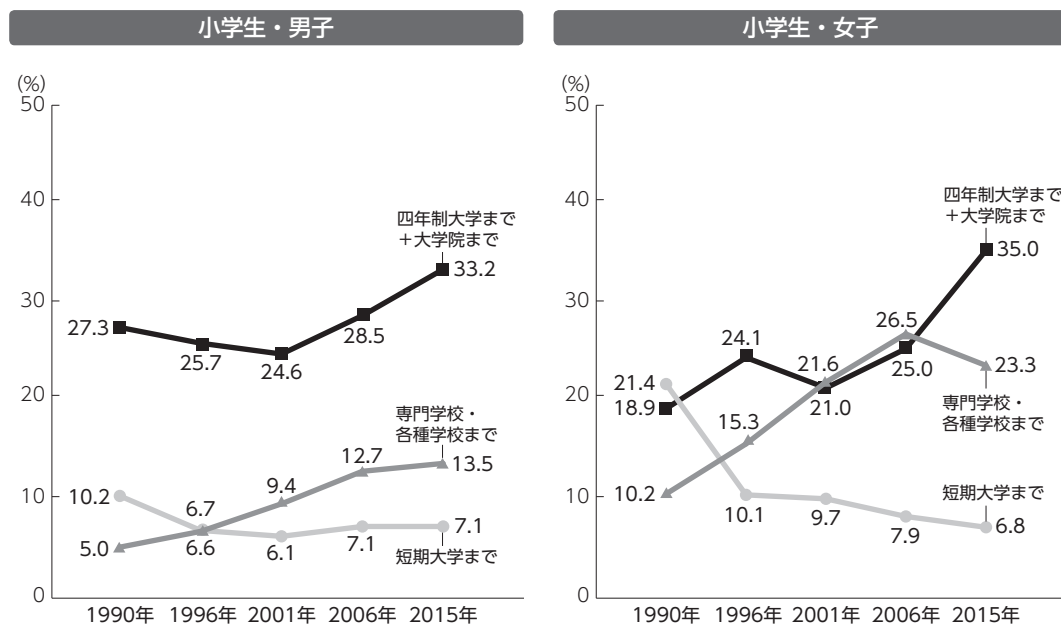
いる。

小・中学生の男子は、「四年制大学まで+大学院まで」が2006年比で約5ポイント増えたが、その他2項目はほぼ横ばいである。

高校生も男女とも「四年制大学まで+大学院まで」の比率が増え、「専門学校・各種学校まで」が減少しているが、女子の方が変化が大きい。

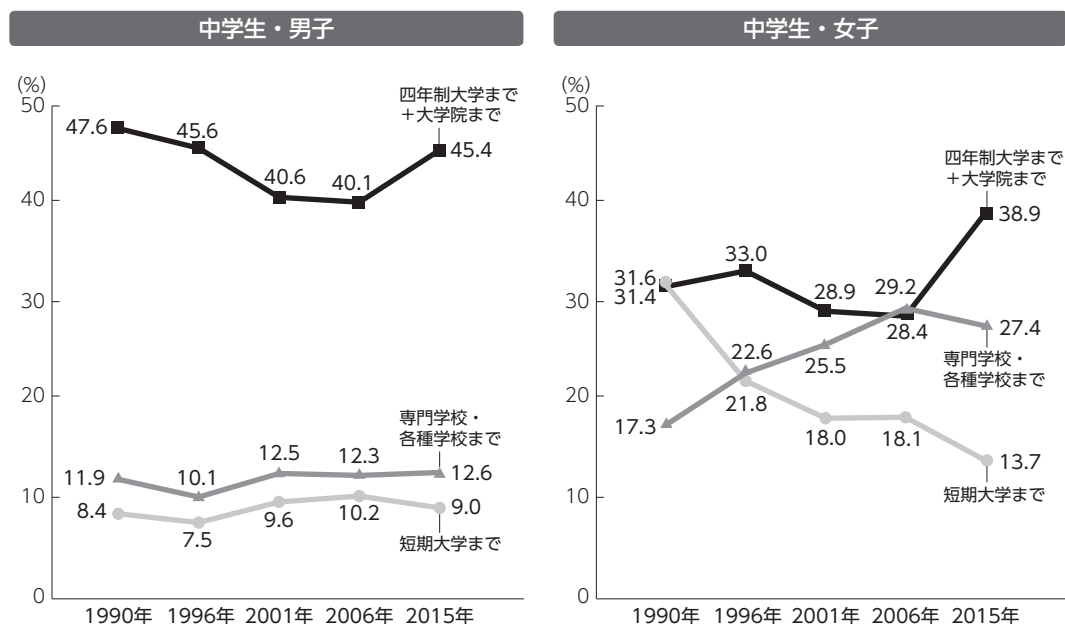
1990年からの25年間で女子の進学意識はかなり変化してきていることがわかる。

図5-1-4 希望する進学段階（大学・大学院、短期大学、専門学校・各種学校）
（小学生、性別、経年比較）



注) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。

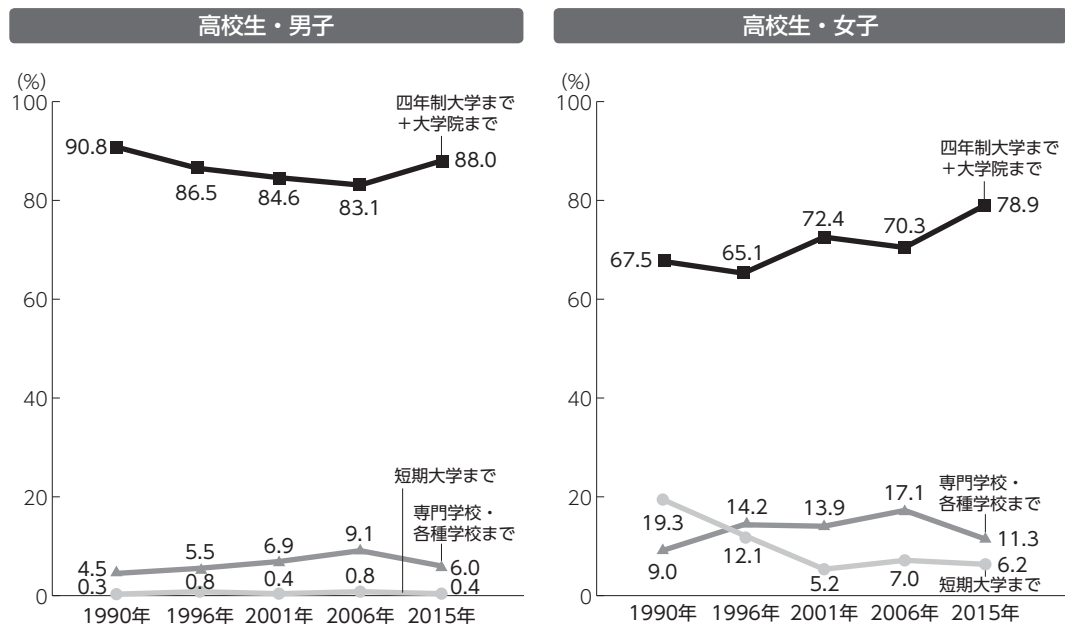
図5-1-5 希望する進学段階（大学・大学院、短期大学、専門学校・各種学校）
（中学生、性別、経年比較）



注1) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。

注2) 1990年・1996年は「中学校まで」の回答者を、2001年・2006年・2015年は、高校に進学したいと「思っていない」との回答者を含めた全回答者に対する比率で統一して算出している。

図5-1-6 希望する進学段階（大学・大学院、短期大学、専門学校・各種学校）
（高校生、性別、経年比較）



注) 1990年は「大学院まで」をたずねていない。

2

中学受験

中学受験の希望は2006年比でほぼ横ばい。受験を希望する学校は「私立中学校」「公立の中高一貫校」「国立大学の附属中学校」の順に多い。とくに大都市では「公立の中高一貫校」の受験を希望する比率が14.1ポイント増えている。

●大都市で公立中高一貫校の希望が増え、私立中学校が減少

小学5年生の夏休み前の時点で、中学受験を決めているのは全体で25.2%、受験の盛んな大都市（東京）では37.1%と、いずれも2006年から大きな変化はない。1990年からの推移をみると、2001年から2006年の間に大都市（東京）で中学受験の希望が12.6ポイント増と大きく増えている（図5-2-1）。

また、受験を決めている小学生に対して、どのような中学校を受験しようと思っているのかをたずねたところ、「私立中学校」47.0%、「公立の中高一貫校」28.5%、「国立大学の附属中学校」19.4%であった（表5-2-1）。2006年と比較すると「私立中学校」が減少し、「公立の中高一貫校」が増加して

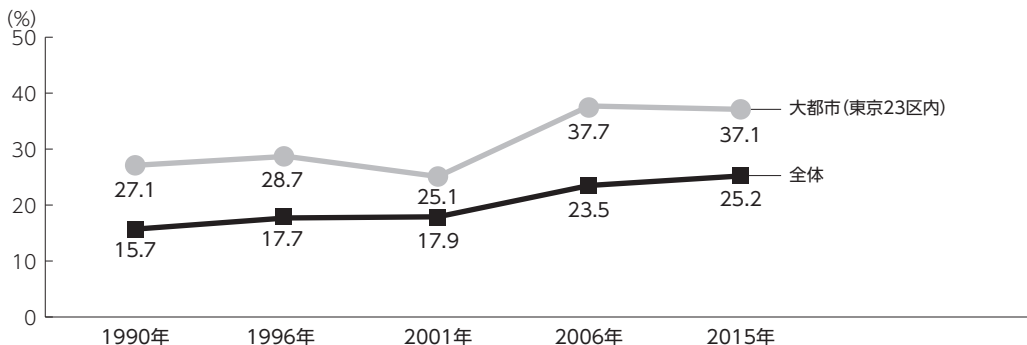
いる。これには大都市（東京）の影響が大きく、ちょうど2006年頃から公立中高一貫校の設置が相次いだ東京では、公立中高一貫校が2006年比で14.1ポイント増加し、私立中学校の希望者が10.5ポイント減少している。

●中学受験を決めている小学生の3分の1が3時間以上勉強

では、受験を決めている小学生は、ふだんどれくらい勉強しているのだろうか。受験を決めているか否か別に学習時間の違いをみたのが図5-2-2である。学習時間には塾での学習時間も含まれているが、受験を決めている小学生の35.5%が平日に3時間以上勉強しており、3時間30分を超える、との回答も2割にのぼっている。

Q あなたは、どこかの中学校（私立中学校や大学の附属中学校、中高一貫校など）を受験しようと思っていますか。

図5-2-1 中学受験を希望している割合（小学生、全体および大都市、経年比較）



注) 「はい」と回答した比率。

Q

（「はい」と答えた人におききます。）どのような中学校を受験しようと思っ
ていますか。

表5-2-1 受験を希望する学校の種類（小学生〔受験希望者のみ〕、経年比較） (%)

	全体		大都市（東京都）	
	2006年 (641名)	2015年 (655名)	2006年 (417名)	2015年 (441名)
私立中学校	51.5	47.0	63.8	53.3
公立の中高一貫校	19.5	28.5	20.4	34.5
国立大学の附属中学校	21.5	19.4	22.3	19.3
まだ決めていない	22.9	22.6	14.9	17.0

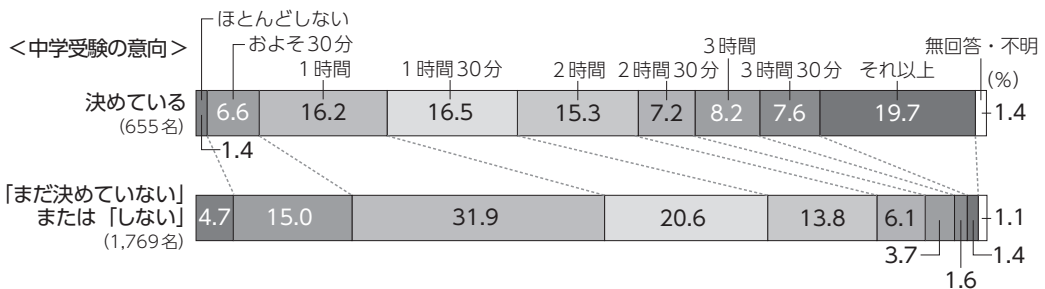
注1) 複数回答。

注2) 対象は「あなたは、どこかの中学校を受験しようと思っていますか」という質問に「はい」と回答した小学生。

Q

あなたはふだん（月曜日～金曜日）、家に帰ってから1日にだいたい何時間くらい勉強
していますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

図5-2-2 平日の学校外の学習時間（小学生、中学受験希望の有無別、2015年）



注) 「あなたは、どこかの中学校（私立中学校や大学の附属中学校、中高一貫校など）を受験しようと思っていますか」に対して、「はい」と回答した小学生を「決めている」とし、「まだ決めていない」または「いいえ」と回答した小学生を「まだ決めていない」または「しない」としている。

3

高校選択

高校選択で重視することは、「みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校」(58.6%)、「自分の好きな教科・科目を自由に選択できる高校」(55.0%)の順に高い。また、2001年から増加しているのは「進学状況のよい高校」(11.0ポイント増)、逆に減少しているのが「校則がきびしくない高校」(15.9ポイント減)である。

●成績上位層で「進学状況」を重視する割合が2001年比で20.8ポイント増加

高校への進学を希望する中学生に、希望する学科と高校選択で重視することをたずねた。この質問は2001年から継続してたずねている（中学生の高校進学希望率は表5-3-1に示している）。

高校選択で重視することのうち、半数を超えているのが、「みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校」(58.6%)、「自分の好きな教科・科目を自由に選択できる高校」(55.0%)であり、この2項目が高いのは2001年から変わらない。2001年から変化しているのは、「進学状況のよい高校」が増加していること(10.7ポイント増)、「校則がきびしくない高校」が大きく減少していること(15.9ポイント減)である(図5-3-1)。

さらに、これを成績の自己評価別にみると、「進学状況のよい高校」は成績上位層で2001年比20.8ポイント上昇し、とりわけ上位層で顕著な変化である。一方、「校則がきびしくない高校」はとくに成績上位層と中位層で減少幅が大きくなっており(約20ポイント減)、以前ほど気にしなくなっている。成績層別に順位をみていくと、成績上位層では「進学状況のよい高校」(61.6%)がもっとも高く、成績中位層と下位層では、「みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校」(順に59.4%、60.2%)が高い。中位層と下位層では「進学状況のよい高校」は4割をきっており、進学状況を重視する傾向が強まっている上位層との大きな相違点となっている(表5-3-2)。



あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか。

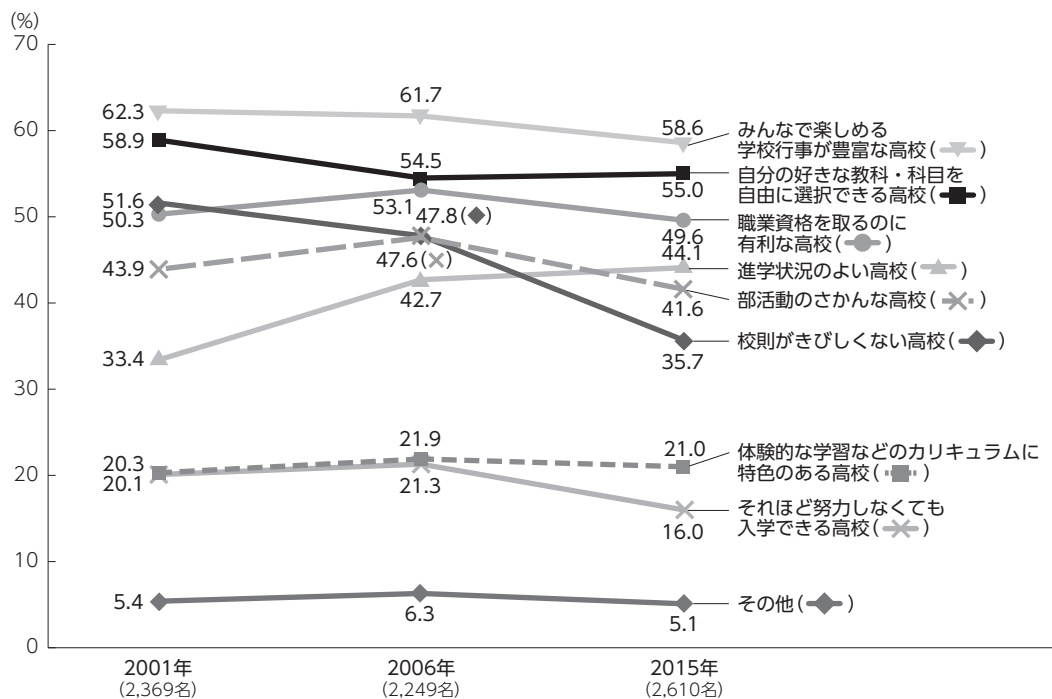
表5-3-1 高校への進学希望（中学生、経年比較）

(%)

	2001年	2006年	2015年
進学希望	94.6	94.9	96.7

Q どのような高校に進学したいですか。

図5-3-1 高校選択で重視すること（中学生[高校進学希望者]、経年比較）



注1) 複数回答。

注2) 1990年、1996年は該当項目なし。

表5-3-2 高校選択で重視すること
（中学生 [高校進学希望者]、成績の自己評価別、経年比較）

(%)

	成績上位					成績中位					成績下位				
	2001年 (860名)	2006年 (807名)	2015年 (972名)	15年 順位	01年比 増減(Pt)	2001年 (577名)	2006年 (456名)	2015年 (589名)	15年 順位	01年比 増減(Pt)	2001年 (886名)	2006年 (931名)	2015年 (1,017名)	15年 順位	01年比 増減(Pt)
進学状況のよい高校	40.8	54.2	61.6	①	+20.8	32.8	44.3	38.5	⑤	+5.7	27.5	32.5	31.2	⑥	+3.7
みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校	62.1	60.0	56.4	②	-5.7	66.2	64.7	59.4	①	-6.8	59.9	61.7	60.2	①	+0.3
自分の好きな教科・科目を自由に選べる高校	53.4	49.4	52.0	③	-1.4	59.6	54.6	58.1	②	-1.5	63.5	59.4	55.7	②	-7.8
職業資格を取るのに有利な高校	50.5	53.8	49.1	④	-1.4	54.2	56.8	54.8	③	+0.6	47.2	51.1	47.3	③	+0.1
部活動のさかんな高校	42.0	48.6	37.3	⑤	-4.7	45.9	49.6	44.5	④	-1.4	44.9	45.8	43.7	⑤	-1.2
校則がきびしくない高校	49.0	43.5	28.6	⑥	-20.4	52.0	46.9	33.3	⑥	-18.7	54.3	51.5	43.8	④	-10.5
体験的な学習などのカリキュラムに特色のある高校	24.0	24.4	23.8	⑦	-0.2	21.8	20.4	18.5	⑦	-3.3	15.7	20.7	19.8	⑧	+4.1
それほど努力しなくても入学できる高校	9.8	10.8	7.5	⑧	-2.3	19.9	17.5	12.1	⑧	-7.8	30.4	32.0	26.5	⑦	-3.9
その他	6.9	7.1	5.9	⑨	-1.0	4.7	5.7	2.9	⑨	-1.8	4.6	5.7	5.6	⑨	+1.0

注1) 複数回答。

注2) 1990年、1996年は該当項目なし。

注3) 2001年と比較して10ポイント以上の増減のあったものに網かけをしている。

4

大学入試

希望する入試方法は、2006年までは「一般入試」と「推薦入試やAO入試」の割合がおよそ6対4で推移していたが、2015年調査では7対3にかわり、「一般入試」の希望者が増えた。学校の偏差値帯別にみると、偏差値「55以上」「50以上55未満」「45以上50未満」のいずれの層においても「推薦・AO入試」は10ポイント以上減少している。

● 「推薦入試やAO入試」の希望者が減少

四年制大学または大学院まで進みたいと回答した高校生（83.3%）に（図5-1-3）、進学を希望する大学のタイプと大学入試方法の希望についてたずねた（図5-4-1）。

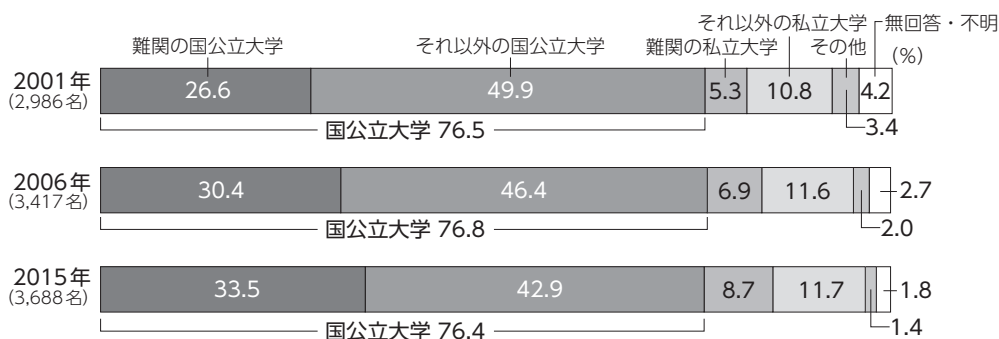
進学を希望する大学として、「難関の国公立大学」「それ以外の国公立大学」「難関の私立大学」「それ以外の私立大学」「その他」の5つの選択肢の中から1つを選んでもらっている。難関か否かの判断には主観が影響するものの、2001年から2015年にかけて「難関の国公立大学」と回答した比率は漸増傾向にある。しかしながら、「それ以外の国公立大学」も合わせて「国公立大学」として希望をみると、2001年から約76%のままで変わ

りはない。

次に、大学入試方法について、「できれば推薦入試やAO入試で」「できれば一般入試で」の二択でたずねた結果が図5-4-2である。2006年までは選択率にあまり変化がみられなかったが、2015年は、「推薦入試やAO入試」が11.7ポイント減り、「一般入試」の希望が増えた。これをさらに学校の平均偏差値帯別にみたものが図5-4-3であるが、偏差値「55以上」「50以上55未満」「45以上50未満」のいずれの層においても、「推薦入試やAO入試」の希望が10ポイント以上減っている。

Q あなたは、どんな大学へ進みたいと思っていますか。

図5-4-1 進学を希望する大学のタイプ（高校生[大学進学希望者]、経年比較）



注) 「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」との質問に対し、「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した高校生のみなたずねている。

Q

大学へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試やAO入試」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか。

図5-4-2 大学入試方法の希望（高校生[大学進学希望者]、経年比較）

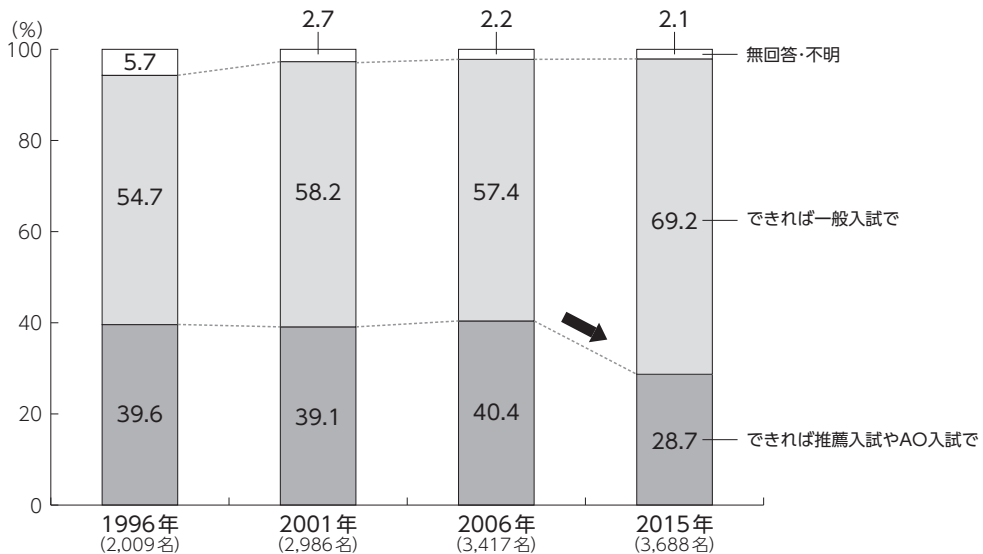


図5-4-3 「推薦・AO入試」を希望する割合（高校生[大学進学希望者]、学校偏差値帯別、経年比較）

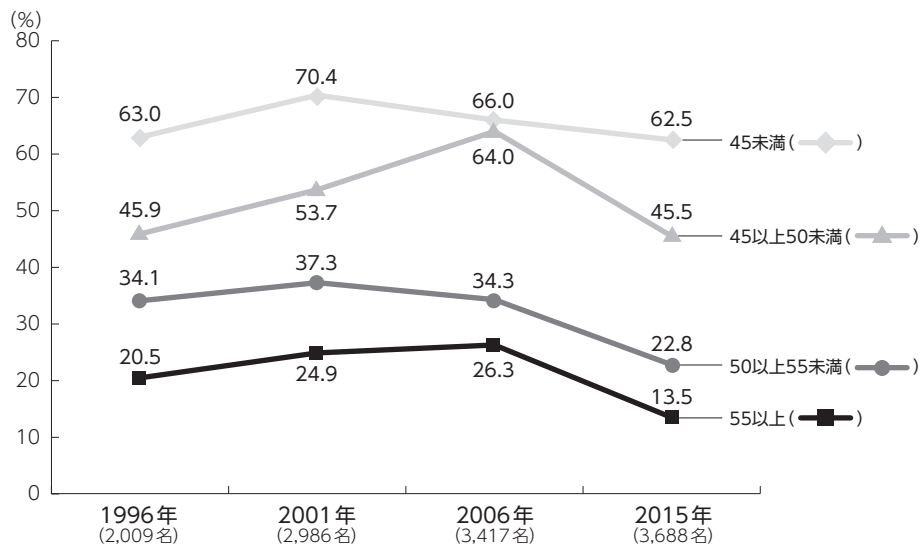


図5-4-2、図5-4-3について

注1) 「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」との質問に対し、「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した高校生のみにとずねている。

注2) 「大学へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試やAO入試」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか」との質問に対して、「できれば推薦入試やAO入試で」と回答した比率。「できれば推薦入試やAO入試で」は、1996年は「できれば推薦で」、2001年は「できれば推薦(AO入試)で」としてとずねている。

